

インタビュー Interview

京城跡の保存に向けて取り組んでいる方々に、それぞれの立場から京城跡への想いについてお話を伺いました



大里東常会長
寺尾 邦義 氏

私が子どものころは、城跡だと知らず、要害山と呼んで、遊び場としてよく登っていました。
それが、京城跡という歴史的にも貴重なものだと、後で知りました。

今、一番心配しているのは、地元の人々が高齢化し、管理が難しくなり、山が荒れてきていることです。
50年後100年後の子どもたちにも、ここにお城があったことがわかるように、地域の者で守っていかないと、ただの山となってしまうのではと危惧しています。
そのためには、まずは町の文化財として一刻も早く指定していただき、保存や活用への道筋をつけていくために活動を続けていきたいと思っています。



相野谷中学校
西村 茂也 校長

中学校では、子どもたちが地域の一員として郷土の文化を伝承し、将来の担い手として役割を果たしていくための手助けをしていきたいと考えています。
そのため、総合的な学習の

時間や道徳の授業のなかで、京城跡について、しっかりと取り組んでいきたいと考えています。
また、子どもたちの中にはいざれ外へ出て行く子もいます。紀宝町のことを聞かれたときに、京城跡のことを話すことができるような子どもになってほしいと考えています。
まずは、子どもたちに歴史的背景を学んでもらい、あわせてウォークラリーなどレクリエーション的なことを行って行く中で、京城跡や地域のことに関心を持ってもらえればと思っています。
今後、京城跡の整備が進んでくることで、子どもたちも京城跡に興味をもち、自分たちで調べようという気持ちも高まってくるのではと期待します。



文化財調査委員
福村 直人 氏

以前、羽山地遺跡の発掘調査に関わらせていただきました。
発掘された遺物のなかには、京城跡と同年代の茶碗のかけらなどが見つかると、羽山地遺跡と京城跡には何か

交流があったのではと感じています。
また、私は、熊野市の文化財専門委員もしていますが、京城跡は赤木城と比べ構造やつくりが異なる点など、また違った点で面白いと感じています。
京城跡には堀切など多くの工夫がされていて、この地域では珍しい堅堀も見られます。敷地内に墓地や東泉寺跡があるのも興味深い点です。

京城跡は、相野谷川の流れの先があり、頂上からは新宮の地が見えます。また、京城の横には北山道があり、北山に向かう際には、ここを通っていました。戦略上とても重要な場所であり、

文化財調査委員長
蔵本 一範 氏



しかし、まだ認知度が低く、まずは紀宝町の方々に知ってもらうことが大事だと思います。また、子どもたちにも、地元の歴史の一環として授業を通して、学んでもらえればと思います。
今後、整備が進み、城跡の雰囲気が出てくれば、みなさんに興味を持ってもらえるのではと期待しています。

歴史に詳しい方がみれば、この地に城が建てられていたことはすぐに分かると思います。
しかし、そのような重要な遺跡ですが、現在は、石垣や堀切にも木が多く生えており、それによって、遺構がだんだんと崩れてきています。そのため、なるべく早く具体的な整備に取り掛かる必要があると思っています。
また、子どもたちに京城跡の歴史や価値などを知ってもらうため、調査完了後に子ども向けの資料を作ったり、実際に登ってみたりする機会を作ってもいいのではないかと思います。
地元の方々に大切にされている京城跡をしつかりと整備し、紀宝町の財産として将来に伝えていく必要があると思っています。